

学校の外で生きる生活者への まなざしを

馬居政幸

(静岡大学教育学部教授)

1 下駄箱の挨拶

もう十年近く前だが、静岡県教育委員会主催の家庭教育に関する会議のこと。ある小学校の校長が、家庭教育の育力低下に関する持論を展開する過程で、憤慨しつつ次のように述べた。

「今時の母親は下駄箱に靴を入れながら校長に挨拶する」

これを聞いた私は、即座に妻の顔を思い浮かべつつ次のように考えた。

「そうだろうな。デモ、なんでこん

なことが問題になるの、挨拶してくれただけでも上出来なのに……」

ただし、当時の私は三十代半ば、現在高二の長男が小学校在学中。現役の父親の身では恐れ多くて（その校長に私の実感を理解させる自信もなく）、実際に出した言葉は、「ハ、そうですか……？」、違和感を疑問符付きの苦笑いでごまかすしかなかった。

編集部からの依頼文を読みながら、私なりの「校長・教頭の評価」の方法を問いなおしてみた時に思い出したの

がこの時の気分であった。理由は、この時の違和感へのこだわりが原因で、その後、研究会等で学校を訪問した際に、その学校を私なりに評価する基準（規準？）として、次のことに気をつけるようになったからである。

「校長先生が親や地域の生活者の目で考え行動できるかどうか」

これが、本稿の課題への私なりの回答だが、問題は違和感の理由。

2 時代錯誤の感覚

なぜ校長は憤慨したのか。思うに、本人が自覚していたかどうかは別として、校長という職にいる者と親、とりわけ母親との関係に対して、次のような前提があったのではないかと。

校長は学校で最も偉い人間。その学校で教育してもらう子どもの親が、学校と教師に感謝するのは当然のこと。特に教師の中で最も偉い校長に背を向

けて挨拶などもつてのほか。正面向いて丁寧にお辞儀をし、子どもが世話になつて礼を言うべきである。

しかし、普通の母親の前提は次のようなものではなかったか。

どんな親であれ、できの悪い子どもが世話になっている担当の〇〇先生には感謝する。でもコーチョーセンサーとは話したこともない。せいぜいPTA総会で壇上からどうでもよいことを勿体ぶって話すのを聞くだけ。直接、自分の子どもの悩みの相談にのってくれる人ではない。おまけに、どうせ三年でいなくなる人、名前も覚えられない。PTAの役員ならともかく、私たち普通の母親には関係のない人。

要するに、今時、校長だからという理由だけで親が挨拶するのは当然、と考えているとすれば時代錯誤の発想、これが当時の私の違和感の原因であった。もちろん、校長に挨拶する必要なし、という意味ではない。職業に貴賤

はないと学校で教えられてきた者にとつて、校長という職業上の立場ゆえに挨拶するのではなく、校長職について自分が自分にとって価値ある人であれば挨拶する、という意味である。

もっとも、これは十年前の出来事。それこそ、今時の校長には先に紹介した校長のように憤慨する方はおられないであろう。私自身も学校現場にかかわる機会が増え、水鳥の水面下の足のように、親の見えない世界で苦勞されている校長職の大変さを知る身となつた。それ故、小学校に二人、中学校に一人、高校に一人、お世話になっていく親として、機会があるたびに、わが子の学校の校長先生には正面を向いて丁寧な挨拶することを心掛けている。

だが他方で、先の校長の憤慨には、今なお同意できない。むしろ現在の日本の学校が置かれた状況を自覚するならば、時代錯誤ではすまされない。場合によっては、校長の資質として不適格

とまでいわざるをえない。

3 コーチョーセンサーから校長へ

かつての村や町の中心にあった学校の校長が、村や町の人にとってどのような存在であったかを考えてほしい。子どものことのみでなく、様々な日常の相談事から嫁や婿の世話まで、請われるままに大人の生活全体の先生であつたはず。実際に親子三代にわたり教わり、相談し、迷惑をかけてきた、という校長も珍しくなかったはず。

他方、戦後の日々の糧に事欠く時代に、乏しい村や町の財政をはたいて学校を再建することに同意し、義務化された中学校の新設を文字通り物心ともに支えてきたのが、日本の親であり地域社会の人たちであったはず。その背後に、子どもの親のみでなく、村や町の人全体にとって、どこで会っても親しみと尊敬の念を込めて挨拶するコーチョーセンサーの存在がなかったか。

だが、設備・施設が整い、教育内容が確定するにつれ、いつしか学校は親の要求をうとましく思うようにならなかったか。健全育成の名のもとに、子どもを学校の世界に閉じこめ地域から隔離してこなかったか。そして、校長の世界もまた、親しみをこめた口語のコーチャーセンサーから、公文書に漢字で記載された校長の職務の世界に閉ざされるようにならなかったか。

たとえば、赴任した学校の学区の人たちとともに、子どもの生きる世界を豊かに育むことを、校長としての学校経営の基盤におかれているか。挨拶を要求する前に、親に自分を校長として認めてもらうために何をすべきかを、悩み行動されているだろうか。

4 今何が問われているか

このような私の指摘に対して、それこそ時代錯誤の意見、との批判がある。少なくともこれまでの学校であれ

ば、その通りと答えるしかなかった。だが、学校週五日制から新しい学力観まで、今、学校は大きな変革期にあるはず。明治五年の学制発布以来の日本の学校のあり方が問われていると考える。だからこそ、校長と教頭の勤務評定が問題になるのではないか。

週休二日ではなく学校週五日制と言いつつ換えたのは、改めて教育の責任を家庭や地域社会の人々と共有することにより、子どもの生きる世界を再構築することが理由のはず。生活科が教えるように、新しい学力観の課題は、子どもが生活する世界で出会うヒトやモノやコトの教育力を、見直し再構築することにあっては、ないか。いずれも家庭や地域の人たちの理解と協力なくしては、その目的を達成できないはず。

これが、「校長先生が親や地域の生活者と同じ目の高さで考え行動できるかどうか」を学校評価の基準とする理由である。ただし、それは親や地域の

人たちのいうことをすべて聞けということではない。下駄箱に靴を入れながら挨拶する母親の思いを想像できる優しさをもってほしいという意味である。それは親しみの表現かもしれない。驚いて緊張した結果かもしれない。もし、子どものしつけが問題なら、まず自分の方から挨拶の規範を示すコーチャーセンサーであってほしい。

憤慨とは自己の正しさを前提とする感情表現、校長の考えを規準に親の行動を評価した結果の表現のはず。だが、なぜ子どもが学ぶかを考えてほしい。彼ら彼女らが生きる世界は学校ではなく地域や家庭。学校はそのための準備の場、学校の中にのみ適応できる人間の教育が目的ではないはず。その学校の責任者が、地域や家庭で生きる人たちの思いを理解できなければ、一人の人間として自立するための基盤を培うことを目的とする学校教育の再構築は不可能、と考えるが、いかがか。

◆「校長・教頭の評定」私なることを評価する

なぜこうも評価したがるのか

——手当本位のレベル化は人間不信を招く——

庄司和晃

(大東文化大学教授)

期待上の三点

任命制の中で校長さんのことなれば、格別の言い分もないのですが、少々の心づくところを記してみたいと思います。

まずは、「期待上の三点」です。

- ① お上を気にするな
 - ② 若い先生をほめろ
 - ③ 言いわけはするな
- いわゆる校長さんへの期待です。むかしから、「教師は天狗である」

と言われています。

なかなかの表現です。

うまい文言です。そのごとく、一般の先生達というのは、強いプライドをもった面白い集団です。

表面はおとなしそうに見える先生でも、中身にはたいいて、「自分こそは」という根性を秘めているもんです。

校長さんの対応

しかし、です。

天狗は芸の行き止まり

高慢は出世の行き止まり

自慢は知恵の行き止まり

こんなことがありますから、そこは反省的に留意しなければなりません、そこをひと皮むけば、先生達の天狗集団のその下には、前進の芽がどっさりとかくれています。

そこそこを下手につぶさないように、校長さん達に、しっかりと手を打ってほしいんです。

なかならず、若い先生達をうんとほめてください。伸びんとする芽が、大いなる光を待ち望んでいるのですから、それが今しがた、②として結晶させてみた一言なんです。

きせんと歩く

坂村真民という詩人に、「しんみん五訓」というのがあります。

言わば、思想詩です。つぎが、それです。

特集 「校長・教頭の評定基準」問題点を探る

解説・東京都教育庁の「校長・教頭の評定基準」……………藤木 雅巳 5
 資料(1)「勤勉手当の成績評定における評定基準」(校長用)……………有園 格 8
 資料(2)「勤勉手当の成績評定における評定基準」(教頭用)……………10

●校長・教頭の力量を問う―東京都教育庁の評定基準を読んで……………小島 弘道 12
 評定の条件としての職務環境の構築……………上寺 久雄 16
 校長としてのヘッドシップと力量……………長尾 彰夫 20
 並たいていでない校長・教頭の力量……………新井 郁男 24
 学校の創造性を育てる管理職評価のあり方……………

●校長用「勤勉手当の成績評定基準」を検討する……………有田 和正 28
 「人間的魅力」も評定要素に入れない……………菅原 吉男 32
 学校改善に取り組む校長と「評定基準」……………大畑 佳司 36
 教育的立場が全く欠落している……………糸井 清 40
 学校経営上の課題を明らかにすることから……………青木 一 44
 評定されるよりも自己評価を……………

●教頭用「勤勉手当の成績評定基準」を検討する……………下村 哲夫 48
 業績評価と人物評価を混同―こんなあいまいな基準は困る……………館野 健二 52
 都教委選考による教頭なら評定はAのはず……………吉川 廣二 56
 教育の場には、不適當である……………根本 正雄 60
 具体的な評定基準の設定……………橋本 定男 64
 教頭は風を起さず。風は基準を知らない。……………

●「校長・教頭の評定」私なら「こ」を評価する……………馬居 政幸 68
 学校の外で生きる生活者へのまなざしを……………庄司 和晃 71
 なぜ「こ」も評価したがるのか……………高橋 正和 74
 「人材育成」これだけでよい……………竹川 訓由 77
 「前向き・肯定的」か……………井上 茂 80
 いかに教職員にやる気をもたせるか……………

教育ニュース・ズームアップ

1 学校週5日制・月2回の実施へ……………安達 拓一 83
 2 日教組が隔週5日制で緊急提案……………
 3 日教組21世紀ビジョン案の報告……………

★連載／論壇時評・58……………明石 要一 91
 道徳教育を学校の教育計画の中に位置づける具体的な方法……………

☆リレー連載／新しい学校づくりへの提言・10……………大森 修 95
 新しい学校づくりの鍵概念は「参画」……………板倉 弘幸 98
 8時間のカリキュラムづくり……………

◆リレー連載／授業改革の課題・10……………藤井 千春 101
 教師に求められる知識観の転換……………

★連載 時代が変わる・授業も変わる……………有田 和正 106
 授業の改革に挑戦しよう……………

◆連載／新学力観と基礎学力・10……………安彦 忠彦 111
 新しい学力観と私の基礎学力観……………